

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

芸術の秋 美術館行ってみて

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



道立近代美術館であったゴッホ展に行ってきました。平日の午前中ならすいているだろうと思っていると、券売所は長蛇の列。会場内も人が幾重にもなり、人の頭の間から遠くに見えるのが精いっぱいでした。

2002年にも見ましたが、その時の来場者数が28万人超、今回も20万人と、ゴッホの人氣に改めて感じ入りました。イヤホンをして解説を聞きながら鑑賞する人がたくさんいました。私は真っ白の状態で絵に向き合う方が好きですね。

混雑もさることながら声高に話す人もいて閉口し、早々に退出して併催の「開館40周年記念近美コレクション 北海道美術50」を見ました。ゴッホ展に比べこちらはすいていて、ゆっくり鑑賞できました。道内作家の代表的な作品が並び、興味深い構成です。ゴッホに導かれて「今日は芸術を楽しむ」と決めて時間を作ったのであれば、こちらにも足を運んでもらいたかったと思います。ゴッホの名前には勝てないということでしょうか。入場者数のあまりの違いに驚いた次第です。私はもとより絵画鑑賞が好きで、「悠悠と。」の表紙は

北海道ゆかりの作家の作品を使わせてもらっています。創刊から3年間は植田莫、その後1年6冊を、一木万寿三、八木伸子、野本醇、西村一夫、武田伸一、徳丸滋、繁野三郎、木田金次郎、笹山峻弘、澤田豊二、上田茂、高橋シュウと、錚々たる先生方ばかりです。

札幌にいと道立近代美術館など、いながらにして大作を目にすることが出来ます。何ともありがたいことです。が、後志ミュージアムロードを始め、道内各地にあるいろいろな美術館もそれぞれ特色があつてすてきです。

現在「悠悠と。」の誌面で、閉校した校舎の利用の様子を紹介しています。芸術家が工房やアトリエとしてかしているケースも多く、校舎が定年後の第二の人生を歩んでいるようでうれしい限りです。中には美術館もあり、今後訪問するのを楽しみにしています。

美術館にはよく行くほうだとは思っていましたが、実は知らない所がたくさんあります。最近運よく出合ったのが釧路湿原美術館(釧路市阿寒町)。佐々木栄松の作品に魅せられました。釣り師としても著名な方だそうで、イトウ釣りの大家でもあり、開高健とのツーショットも飾られています。

「芸術の秋」と言っても早足に過ぎつつありますが、ドライブの際は、各地の美術館やギャラリーをのぞいてみてはいかがでしょうか。